

順天堂大学練馬病院外科だより

心臓血管外科：冠動脈バイパス術- その価値は変わらず！

近年、カテーテル治療(PCI)は低侵襲かつ迅速な治療法として普及し、適応も広がる一方で、**複雑多枝病変や糖尿病合併例、低心機能症例などにおいては、冠動脈バイパス術(CABG)が依然として長期予後に優れる**ことが、最近の研究やガイドラインでも示されています。

【当科での取り組み】

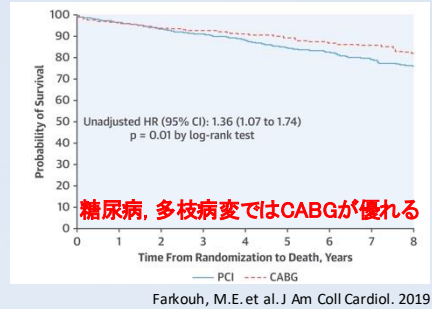
当院では人工心肺を使用しないオフポンプCABGをほぼ全例で行い、動脈グラフトを用いた**長期開存性に優れた術式**を標準としています。また、患者さんの背景に応じて**左心耳切除**を併施し、将来の脳梗塞予防にも配慮しています。

手術と聞くと身構える方も多いですが、現在の**CABGは安全性が高く回復も早く術後1週間～10日で退院**できます。また、再狭窄のリスクが低いため、**再介入の心配が少ない治療法**でもあります。

地域の先生方と連携しながら、患者さんにとって最も適切な治療法を提案できるよう努めてまいります。お気軽にご相談ください。

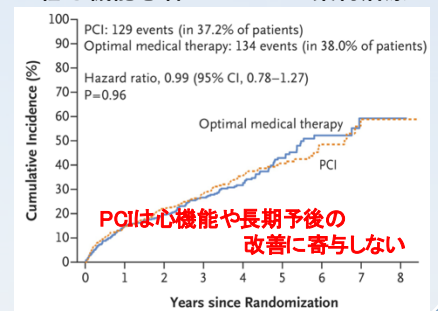
心臓血管外科 李 智榮

PCI vs CABG



Farkouh, M.E. et al. J Am Coll Cardiol. 2019

低心機能患者でのPCI or 薬物治療



Perera D, et al. N Engl J Med. 2022

小児外科：こどもの外科的疾患を治したい！

- 小児外科は、新生児から15歳頃までの子どもを対象に、外科的な疾患を専門に治療する診療科です。成長発達を考慮しながら、先天性疾患をはじめとする多様な病気に対応しています。
- 当科では、鼠径ヘルニアや臍ヘルニアなどの**体表疾患**、胃食道逆流症・虫垂炎・胆道拡張症などの**消化器疾患**、気胸や漏斗胸などの**呼吸器疾患**、さらに停留精巣・膀胱尿管逆流・水腎症などの**泌尿器疾患**や出生直後に見つかる**重篤な疾患**(食道閉鎖、鎖肛など)にも対応しています。必要に応じて小児科・産科などと連携しながら治療を行います。
- 現在、指導医2名、専門医1名、専攻医1名が在籍し、24時間オンコール体制で診療を行っております。ご紹介・ご相談はいつでも受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。



小児外科 准教授 林 豊